

# 献辞

河野昭三先生は、平成28年3月31日をもって本学を定年退職されました。先生は、昭和48年3月一橋大学商学部をご卒業、同年4月一橋大学大学院商学研究科にご進学、昭和50年3月同研究科博士後期課程を中退され、同年4月山形大学人文学部専任講師に就任されました。昭和54年8月から翌年12月まではメリーランド大学経済学部フルブライト客員研究員として米国制度学派の研究に従事され、昭和56年11月山形大学人文学部助教授を経て、昭和60年4月からは東北大学経済学部に移籍され、平成2年2月同学部教授（平成11年4月組織変更で同大学院経済学研究科教授）となりました。

その後、平成18年3月東北大学を在籍21年間で早期退職され、同年4月東北大学名誉教授の称号が授与されると共に、甲南大学経営学部の教授として着任されました。平成27年4月からの1年間は本大学院社会科学研究科会計専門職専攻教授を務められました。ご着任以来10年間にわたり、研究・教育・学内行政の各面でご活躍され本学と学界の発展に大きく貢献されたことで、平成28年4月本学名誉教授の称号が授与されました。

先生のご研究は、経済社会の発展的改良を志向する米国制度学派の思考法をもとに、人間や企業（組織）の行動を静態的な制度的真空のなかで微分法的な分析は行わず、動的な累積的因果過程を積分法的に考究するという独自のものであり、その輝かしい成果は米国や日本での清涼飲料ビジネス、組織の制度化、民営化プロセス等に関する諸研究に見ることができます。近時では、ドラッカー、バーナード、マズロー、アージリス等に関する厳密な学説研究をもとにした「社会・企業（組織）・個人の三位一体化」というパラダイム提示は経営学の新地平を切り拓くものとして大いに期待されております。

先生は学会役員や公的委員などを務められ、社会的な貢献活動にめざましいものがあります。主要なものに、平成7年9月から平成13年9月までの2期6年間にわたる日本経営学会理事（東北部会代表）、平成23年9月甲南大学で開催された日本経営学会第85回全国大会の準備委員長・実行委員長、さらには平成13年4月から平成16年3月までの大学設置・学校法人審議会大学設置分科会経済学専門委員会委員、平成14年8月から平成16年7月までの大学評価・学位授与機構大学評価委員会経済学系教育評価委員、平成22年12月から平成26年10月までの金融庁公認会計士・監査審査委員会公認会計士試験委員などがあり、このことは先生の深い学識と識見に対する高い評価と信頼の証左といえます。

教育面では、東北大学時代に数多くの研究者を学界に送り出されましたが、本学では授業科目「経営学総論」（大学院科目も担当）において、学生諸君に対して多大なる学問的刺激を与えて戴きました。また、行政面では、企画委員長として各種改革を推進され、学校教育法の改正が重なった平成26年度では、経営学部長・社会科学研究科経営学専攻主任、甲南学園理事・評議員として、甲南大学の将来的発展に大きく貢献されました。席上、いつも遠くを見つめておられた厳しくも優しい眼差しは決して忘れることができません。

私どもは、先生のご退職に際し、本学ならびに本学会へのご貢献に深い敬意と謝意を込めまして、本論文集を捧げたく存じます。

河野昭三先生の益々のご健勝とご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。

甲南大学経営学部長

甲南大学経営学会会長

渡 邊 和 俊